

国臨協新潟地区会会報

朱鷺つと

2014年 8月発行 第71号

発行者 : 水島 美津子 (西新潟中央病院)
編集委員: 菅原 恵子 (さいがた医療センター)
内藤 真由美 (西新潟中央病院)
菅井 めぐ美 (新潟病院)

会長挨拶

国立病院機構
西新潟中央病院
国臨協新潟地区会 会長
水島 美津子 技師長



8月に入り暑い日が続いておりますが、関信支部新潟地区会会員の皆様におかれましては益々ご盛栄のことと存じます。また平素より地区会活動にご理解、ご協力を賜り誠に有り難うございます。

去る7月5日には、地区交流会に会員皆様の積極的なご参加を頂き、有難うございました。当日は天候に恵まれ、ソーセージ手作り体験と試食会や県立歴史博物館見学(任意)、また会場を移動し、アクアレー長岡の温泉で汗を流し、懇親会ではお酒と料理に豪遊気分、会員一同おおいに親睦を深めた楽しい一日となりました。企画担当の新潟病院桑村技師長様や臨床検査科職員の皆様には早期から準備頂き、重ねてお礼申し上げます。

さて、会報誌「朱鷺つと」第71号を発行いたします。4月の人事異動に伴う新旧会員のご挨拶や、地区交流会の写真、恒例となりました趣味のコーナーなど掲載いたしましたので併せてご覧ください。

今後の地区会活動は、9月13日の第42回国臨協関信支部学会地区会コーナーに向け、優勝狙いのポスター制作作業を着々と進めております。当日は理事3名が審査員として参加いたします。また11月8日には新潟地区会総会・研修会を西新潟中央病院の担当で計画しております。遠方ですが、多くの会員皆様のご参加をお願い申し上げます。

4月より理事メンバーの交代もあり、理事4名女子力で奮闘しておりますので、今後とも会員皆様のご協力・ご支援を宜しくお願い申し上げます。



ぎおん柏崎まつり 海の花火大会 新潟病院 中村 綾子 技師 撮影

新潟地区会異動者自己紹介

転出者



国立療養所多磨全生園
中村 宏樹 副技師長

この度、平成26年4月1日付けを持ちまして国立療養所多磨全生園に異動となりました。新潟地区会では4年間活動に参加し、会務途中ではありますが理事を務めさせて頂きました。

新潟地区会は交流会や地区総会を開催するにあたり、東西に長い地理的な要因から担当施設が会場や講演会、懇親会について苦勞しながら準備をしている現状があります。そのような中で趣向を凝らし、毎年有意義な活動が継続されてきました。私自身も新潟地区会は2回目となりますが、当会に参加できたことを大変光榮に思います。

唯一の心残りは、昨年の関信支部学会地区会ポスターであり、僅か2ポイント差での2位を獲得したことでした。3年連続2位という輝かしい記録ではありますが、残すは1位獲得のみです。それには会員の皆様のアイデアが不可欠となりますので今後とも会長ならびに各理事へのご理解、ご協力をお願いする次第です。

最後に新潟地区会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。本当にありがとうございました。



国立病院機構
霞ヶ浦医療センター
千葉 雅弘 主任技師

この度4月1日付けを持ちまして霞ヶ浦医療センターへ異動となりました。2006年から約8年間、新潟地区会の皆様には大変お世話になりました。地区会の理事も2期務めさせて頂き勉強になりました。

埼玉の専門学校を卒業し国立国際医療センター(当時)で非常勤職員として細菌検査、検体受付等を経験し、約1年後にさいがた病院(当時)で採用となりました。検体検査の経験はほぼゼロ、新潟県には全く縁がなく車もない状況での転勤となり公私共に悪戦苦闘の毎日でしたがスタッフの皆様に支えられ乗りきることが出来ました。新潟といえばおいしい米、新鮮な魚、銘酒の名産地ですが、実は(ご存知の方もいらっしゃるかと思います)刺身と酒は苦手でした。今でも酒は全く飲めませんが、新潟の刺身は東京で食べていた物と比べ本当に美味しく食べられるようになり、少しですが新潟の恩恵を受けることができたかなと思います。さいがた医療センターでは検体検査、病理、生理検査と様々な分野を経験させて頂き本当に感謝しております。当然ですがどの分野も奥が深い為知識も浅くまだまだ半人前ですが、次施設では主任という役職になる為そうも言うておられず、当院スタッフおよび地区会の皆様からのご指導を糧にして後輩の指導および自身の成長に努めたいと思います。

最後になりましたが、新潟地区会の益々の発展と会員の皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたしております。本当にありがとうございました。

転入者



国立病院機構
さいがた医療センター
菅原 恵子 副技師長
(新潟地区会 副会長)

この度、4月1日付でさいがた医療センターに昇任でまいりました菅原です。
あっという間に2カ月が過ぎ、直江津での生活にもだいぶ慣れてきたところです。まだまだ副技師長業務には慣れないことがありますが、日々頑張っております。

実家は新潟市北区にあり、母が趣味で野菜の栽培をしています。昨年の6月に、くも膜下出血で2ヶ月ほど新発田病院に入院しましたが、後遺症もほとんどなく退院することができ、今では畑仕事を楽めるようになりました。母の強運が私にもあると良いなあと思っています。また最近、車がないと不便なことが多いため、20年以上運転していないのに車を購入しました。当然、免許証はゴールドです。母が心配するので、実家までは車ではまだ帰りませんが、もうちょっと慣れたら車で帰ってみようと思っています(ちなみに初心者マークは貼っていません。フッフ)。)

さて、中村副技師長さんが新潟地区会の副会長をされていたため、今期は後を引継いで副会長を担当させていただくことになりました。フットワークもなく、美的センスもありますが、中村副技師長さんの悲願でもある『地区会ポスター』の優勝をめざし、会員の皆様のお力をお借りして制作していきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新規採用者



国立病院機構
さいがた医療センター
保田 剛史 技師

この度、4月1日より検査科に新規採用となりました保田剛史と申します。どうぞよろしくお願い致します。私は新潟県旧白根市の出身です。学生の際は新潟市西区にある新潟医療技術専門学校へ実家から通っていました。久しぶりの一人暮らしとなりましたが、実は上越市には両親の仕事の都合で2年間住んでいたことがあります。25年ぶりに帰って来てワクワクしていますが、大雪が怖いです。

私の趣味は海外旅行です。これまでイギリス、ドイツ、フランスなど10ヶ国に旅行しました。やはりそこで現地の人とコミュニケーションをとり、おいしい料理食べて、観光名所に行くことが旅行の醍醐味です。海外旅行に行く予定の方で穴場スポットを知りたい方は是非気軽に話かけてください。

現在、私は検体検査を中心に業務を行っていますが、勉強不足でわからないことがたくさんあり、自分自身情けなくなる場合があります。業務に支障のないように、また皆様にご迷惑をかけないように努力していきたいと思います。

今後は向上心と謙虚さを忘れず、目の前の課題に1つ1つ取り組み、1日も早く仕事を覚え、スムーズに業務をこなせるよう頑張ります。そして、さいがた医療センターの皆様に名前を覚えていただけるよう頑張りたいと思います。

まだ、慣れない仕事でご迷惑をおかけすることの方が多いと思いますが、精一杯努力していきたいと思います。どうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成25年度新潟地区会交流会報告



7月5日に新潟地区会、年に1回の交流会が開催されました。梅雨の中でしたが当日は晴天に恵まれて、3施設から総勢13名の皆さまが集まってくれました。

担当施設は新潟病院です。

今回は歴史博物館でのソーセージ作りを体験しました。



午前10時半に歴史博物館のレストランに集合し、2テーブルに分かれ、まずはソーセージの中に詰めるタネづくりです。

レストランご主人にレクチャーしていただきながら、ひたすらコネコネします。

ここでしっかりこねることで滑らかな口当たりのソーセージになります。



お次に専用の器具にこねたお肉をスプーンで入れ、用意していただいた腸に詰めていきます。

バチンバチンと引き金を引くとお肉が腸の中に入っていきます。





そして腸に詰められたお肉をねじり、準備は完了です。
ねじねじするのは破れそうに心配になりましたがしっかり丈夫でした。
同時にバーベキューソースを作ります。たまねぎをおろし、調味料を
適当にいれまして
(本当に適当でした・・・)混ぜてできあがりです。

このあと厨房でゆでて燻製するのでしばし待ちます。
待ち時間には博物館内を見学し、縄文時代や新潟
県の雪国としての暮らしを見て回りました。

ソース作りは涙
との戦いが
ありました



さて、こちらでは試食程度ということでしたが、ソースがとても
合っておいしかったです！山本主任さんのお庭で採れました
バジルをアレンジで入れましたソーセージもとても美味でし
た！

場所をアクアレーにうつし、お待ちかねの宴会です(^ ^♪
とても暑い日でしたので皆さまおいしくいただけたのではないのでしょうか。
3施設の皆さまと親睦が深められとても有意義な交流会となりました☆



梅雨なの？お天気
にも恵まれソーセージ
体験も満喫できました！

不手際等ございましたが皆さまご協力どうもあ
りがとうございました！！



平成26年度新潟地区会交流会会計報告

平成26年7月5日(土) 新潟県立歴史博物館・アクアーレ長岡
担当施設 新潟病院

収入の部

	金額(円)	内訳
会費	71,500	5,500円×13名
交流会補助費	15,382	雑費(432円)、飲み物など(1,150円×13名)
計	86,882	

支出の部

	金額(円)	内訳
ソーセージ作り体験	21,450	1,650円×13名
アクアーレ飲食代	65,000	5,000円×13名(花の善:3,500円、 飲み放題:1,500円)
雑費	432	エプロン、タッパ代
計	86,882	

	金額(円)
収入	86,882
支出	86,882
残金	0

平成26年7月7日
会計担当
西新潟中央病院
内藤 真由美



第63回日本医学検査学会発表者スライド紹介

さいがた医療センター 菅原 恵子 副技師長 発表



第63回日本医学検査学会

TRC法（東ソー）による新しい結核菌群検出試薬 およびMAC検出試薬の臨床評価

独立行政法人 国立病院機構 東京病院¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター²⁾

菅原恵子²⁾ 瀬下明子¹⁾ 高橋あゆ子¹⁾ 久高果市¹⁾ 浅里 功¹⁾

利益相反の有無 : 無

*この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などありません。

【はじめに】

近年、抗酸菌遺伝子検査法は特異性に優れ増幅効率の高い検査法が開発されている。TRC法は転写反応と逆転写反応を組み合わせてRNAを増幅し、INFAプローブによってRNAを検出する方法で、増幅効率が高く、短時間で結果がでることから迅速な対応が可能である。しかし煩雑な核酸抽出操作や、結核菌群検出試薬にみられる非結核性抗酸菌*M. shinjukuense*、*M. marinum*との交差反応、MAC検出試薬では*M. avium*、*M. intracellulare*との鑑別ができないなど、以前から試薬の改良が求められていた。今回我々は、新しい結核菌群rRNA検出試薬（以下TB新試薬）とMACrRNA検出試薬（以下MAC新試薬）について、現行試薬TRCRapid M.TB/MACとコバスTaqManMTB/MAIおよび培養との比較検討を行ったので報告する。

【対象および方法】

当院検査室に提出され遺伝子検査を実施した67検体（SAP処理・NACL-NaOH処理）

・材料内訳

検査材料	件数	結核菌群測定(56)	MAC測定(36)
喀痰	23	16	7
胃液	3	3	1
気管支洗浄液	19	15	16
血液	4	4	2
組織(肺・胸膜)	6	6	5
胸水	5	5	2
尿	3	3	2
便	2	2	0
リンパ(節節穿刺)	2	2	1

・培養法：MIGT培養、小川培養

・同 定：キゼンリアTB、DDH法、TaqMan法

・*M. shinjukuense*（臨床分離株）:4株のTB新試薬とTRCRapid M.TBによる測定比較

【結果①】TB新試薬の相関

TB		TRCRapid M.TB			計	TB新試薬/TRCRapid M.TB	
		+	-	計			
TB新試薬	+	29	0	29	29	陽性一致率	97%
	-	1 ^{※1}	26	27		陰性一致率	100%
	計	30	26	56		全体一致率	98%

TB		+	-	保留	計	TB新試薬/TaqMan MTB	
		+	-	保留	計		
TB新試薬	+	27	1 ^{※2}	1 ^{※3,4}	29	陽性一致率	100%
	-	0	25	2 ^{※4}	27	陰性一致率	96%
	計	27	26	3	56	全体一致率	93%

※1: 塗抹+/ー・培養- ※2: 塗抹-・培養+ ※3: 塗抹+/ー・培養+ ※4: 塗抹+/ー・培養+ ※5: 塗抹+/ー・培養+

【結果②】培養との相関

TB		培 養			計	TB新試薬	
		+	-	計			
TB新試薬	+	28	1 ^{※1,2}	29	29	感度	97%
	-	1 ^{※1}	26	27		特異度	96%
	計	29	27	56		一致率	96%

TB		培 養			計	TRCRapid M.TB	
		+	-	計			
TRCRapid M.TB	+	28	2 ^{※1,2,3}	30	30	感度	97%
	-	1 ^{※1}	25	26		特異度	93%
	計	29	27	56		一致率	95%

TB		培 養			計	TaqMan MTB	
		+	-	計			
TaqMan MTB	+	26	1 ^{※1,2}	27	27	感度	90%
	-	2 ^{※1}	24	26		特異度	89%
	計	28	25	53		一致率	89%

※1: 塗抹+/ー・培養+ ※2: 塗抹+/ー・培養+ ※3: 塗抹+/ー・培養+ ※4: 塗抹+/ー・培養+ ※5: 塗抹+/ー・培養+

【結果③】MAC新試薬の相関

MAC		TRCRapid MAC			計	MAC新試薬/TRCRapid MAC	
		+	-	計			
MAC新試薬	AV	12	0	12	12	陽性一致率	100%
	IN	0	0	0		陰性一致率	100%
	計	12	0	12		全体一致率	100%

MAC		AV	IN	AV+IN	保留	-	計	MAC新試薬/TaqMan MAI	
		AV	IN	AV+IN	保留	-	計		
MAC新試薬	AV	10	0	2 ^{※1}	0	0	12	陽性一致率AV	91%
	IN	0	0	0	0	0	0	陽性一致率IN	-
	AV+IN	1 ^{※1}	0	0	0	0	1	陽性一致率AV+IN	100%
	-	0	0	0	1 ^{※1}	22	23	陰性一致率	100%
	計	11	0	2	1	22	26	全体一致率	89%

※1: 塗抹+/ー・培養+ ※2: 塗抹+/ー・培養+

【結果④】培養との相関

MAC		培養				
MAC 新試薬	AV	12	0	0	0	12
	IN	0	0	0	0	0
	AV+IN	0	0	1	0	1
	-	1 ^{*1}	0	0	22	23
	計	13	0	1	22	36

MAC		培養			
TRCRapid MAC	+	13	0	13	
	-	1 ^{*1}	0	22	23
	計	14	0	22	36

MAC		培養				
TaqMan MAI	AV	10	0	1 ^{*2}	0	11
	IN	0	0	0	0	0
	AV+IN	2 ^{*1,4}	0	0	0	2
	血液	0	0	0	1 ^{*2}	1
	-	1 ^{*1}	0	0	21	22
	計	13	0	1	22	36

MAC新試薬	
感度AV	92%
感度IN	—
感度AV+IN	100%
特異度	100%
一致率	97%

TRCRapid MAC	
感度	93%
特異度	100%
一致率	97%

TaqMan MAI	
感度AV	92%
感度IN	—
感度AV+IN	—
特異度	95%
一致率	86%

*1: 血液 *2: 血液 / - *3: 血液検体
*4: 真S. aureus陽性菌新追加検体 (1件)

【結果⑤】材料別培養との相関

TB	培養一致率		
	TB新試薬	TRCRapid M.TB	TaqMan MTB
喀痰	16/16	15/16	16/16
胃液	3/3	3/3	3/3
気管支洗浄液	15/15	15/15	14/15
血液	4/4	4/4	1/4
組織 (肺・胸膜)	5/6	5/6	5/6
胸水	4/5	4/5	4/5
尿	3/3	3/3	3/3
便	2/2	2/2	2/2
リンパ節穿刺液	2/2	2/2	2/2

MAC	培養一致率		
	MAC新試薬	TRCRapid MAC	TaqMan MAI
喀痰	7/7	7/7	5/7
胃液	1/1	1/1	1/1
気管支洗浄液	15/16	14/16	16/16
血液	2/2	2/2	1/2
組織 (肺・胸膜)	4/5	4/5	4/5
胸水	2/2	2/2	2/2
尿	2/2	2/2	2/2
リンパ節穿刺液	1/1	1/1	1/1

【結果⑥】 *M. shinjukuense* (臨床分離株*):4株の測定結果

<i>M. shinjukuense</i>	TB新試薬	TRCRapid M.TB
臨床分離株 1	陰性	陽性
臨床分離株 2	陰性	陽性
臨床分離株 3	陰性	陽性
臨床分離株 4	陰性	陽性

* 同定: 16S rRNA遺伝子解析

検査時間

① 現行試薬



② TRC新試薬



【まとめ】

- ◆ TB新試薬のTRCRapid M.TBおよびTaqManMTBとの相関は、全体一致率98%と93%で、培養一致率は、TB新試薬:96%、TRCRapid M.TB:95%、TaqManMTB:89%と同等であった。またTB新試薬では、*M. shinjukuense* との交差反応は認められなかった。
- ◆ MAC新試薬とTRCRapidMACおよびTaqManMAIとの相関は、全体一致率100%と89%、培養一致率は、MAC新試薬:97%、TRCRapidMAC:97%、TaqManMAI:86%と同等であった。また、NTMの混合感染などで遺伝子検査と培養結果が乖離する場合は、十分に注意し検査をすすめる必要がある。
- ◆ TaqManMTB/MAIでは、血液3検体が反応阻害のため判定保留となったが、TRC新試薬、現行試薬では反応阻害はみられなかった。
- ◆ TRC新試薬は、現行試薬TRCRapid M.TB/MACおよびコバスTaqManMTB/MAIと同等の性能で特異性に優れ、各種検体での測定可能であり、測定時間も短縮されることが有用であると考えられる。

西新潟中央病院 加藤 輝 技師 発表



全自動化学発光酵素免疫測定システム 「ルミパルスS後継機」の基本性能評価

加藤 輝¹⁾、藤田 薫²⁾、古江 裕志³⁾、渡辺 靖⁴⁾、富田 允²⁾
独立行政法人 国立病院機構 西新潟中央病院¹⁾
富士レビオ株式会社²⁾

利益相反の有無：無

※ この演題に関連し、開示すべきCOI(利益)のある企業などはありません。

目的

今回、我々は全自動化学発光酵素免疫測定システム「ルミパルスG600Ⅱ」(ルミパルスS後継機・富士レビオ株式会社)を評価する機会を得た。

肺疾患関連マーカー 4項目(CEA、CYFRA、ProGRP、KL-6)を用いて、ルミパルスG600Ⅱの基本性能について検討したので報告する。

ルミパルスSおよびG600Ⅱの規格

	ルミパルスS	ルミパルス G600Ⅱ
測定原理	化学発光酵素免疫法(GLEIA)	
検体処理能力	最大60テスト/時間	
試薬	モノテストカートリッジ	
同時分析項目数	最大 8 項目	
キャリブレーション方式	マスターキャリブレーション方式	
検体セット方式	10本ラック方式	37連スネークチェーン
検作・データ処理部	外付けPC	本体一体型
設置スペース (mm)	W1700×D700 以上	W1196×D725 以上



ルミパルス S



ルミパルス G600Ⅱ

方法

1. 機器及び試薬(富士レビオ株式会社)

機器：ルミパルスG600Ⅱ、ルミパルスS

試薬：ルミパルス CEA-N、ルミパルス I シンラ
ルミパルス ProGRP、ルミパルス KL-6エージー

2. 試料

1) 精度管理用コントロール 血清および血漿

ライフチェック イムノアッセイTMコントロール(BIO-RAD)

LPコントロール・ProGRP(富士レビオ株式会社)

エイテストコントロールセット(エーディア株式会社)

2) 検査依頼があり包括同意を得た外来・入院患者 血清および血漿

CEA：242例 CYFRA：220例 ProGRP：43例 KL-6：107例

検討内容

1. 同時再現性

連続10回測定

2. 測定間再現性

1日1回測定を14日間

3. 相関性

患者血清および血漿を用いてルミパルスSとの相関性を検討

4. 自動希釈性能

CEA高値検体の希釈測定

結果

1) 同時再現性

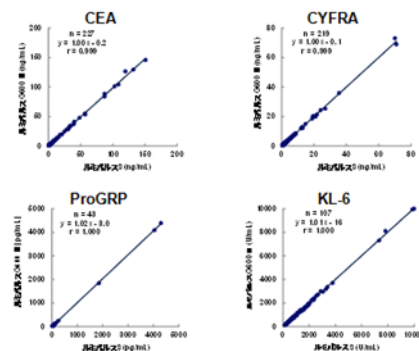
CEA			CYFRA		
	Low	High		Low	High
平均 (ng/mL)	3.4	38.6	平均 (ng/mL)	5.6	26.6
SD	0.07	0.64	SD	0.17	0.26
CV (%)	2.1	1.7	CV (%)	3.0	1.0
(n=10)			(n=10)		
ProGRP			KL-6		
	Low	High		Low	High
平均 (pg/mL)	144.6	399.0	平均 (U/mL)	270	672
SD	2.02	13.94	SD	10.1	25.7
CV (%)	1.4	3.5	CV (%)	3.7	3.8
(n=10)			(n=10)		

2) 測定間再現性

CEA			CYFRA		
	Low	High		Low	High
平均 (ng/mL)	3.5	39.5	平均 (ng/mL)	5.9	27.6
SD	0.13	1.46	SD	0.21	0.85
CV (%)	3.7	3.7	CV (%)	3.6	3.1
(n=14)			(n=14)		

ProGRP			KL-6		
	Low	High		Low	High
平均 (pg/mL)	155.7	405.5	平均 (U/mL)	288	717
SD	5.34	14.30	SD	10.5	28.6
CV (%)	3.4	3.5	CV (%)	3.6	4.0
(n=14)			(n=14)		

3) 相関性



4) 自動希釈性能 ～CEA～

検体No.	希釈倍率	測定値 (ng/mL)		対S測定値 実動率
		S	G600 II	
1	10	431.0	444.3	103%
2	10	213.0	207.4	97%
3	10	218.0	207.0	95%
4	10	1704.0	1661.2	97%
5	10	1476.0	1437.3	97%
6	100	3400.0	3394.1	100%
7	10	285.0	272.9	96%
8	10	411.0	437.6	106%
9	100	3850.0	3950.8	103%
10	10	329.0	330.5	100%
11	100	2720.0	2818.8	104%
12	10	248.0	256.6	103%
13	100	6300.0	6345.0	101%
14	10	319.0	338.6	106%
15	10	317.0	325.0	103%

考察

1. 今回の評価において、同時再現性、測定間再現性、相関性、自動希釈性能は良好な結果が得られ、十分な基本性能を有していると考えられた。
2. タッチパネルの文字サイズが若干小さい。

まとめ

1. ルミパルスG600 IIは従来の機器性能を維持したまま省スペース化された。
2. 緊急検査の割り込みも可能となった。
3. ルミパルスSの後継機として、日常検査への有用であると考えられた。

私の趣味



西新潟中央病院 山本直樹 主任技師

趣味と聞かれて“私の趣味は〇〇です”と答えられれば良いのだが、なかなかそうは言いがたい。これまでにかなりいろいろなジャンルに手を出してきた。釣りにプラモデル、ゴルフにドライブ、そば打ちに陶芸、マーじゃん、パチンコ、競馬、競輪等のギャンブルなどだ。最近はじめたものでは、園芸（バラ、ハーブ等）、興味あるものでは仏師（仏像を彫る）である。いまだ“これだ”と思うようなものは見つからないが選択肢はかなりある。生前の父を見て思ってきたことではあるが、趣味の無い事ほどつまらないものはない。そんな私も定年を片手で数えるまでになってしまった。“無趣味にはなりたくない”そう思うこの頃である。

さて本題にもどろう。これらのなかで唯一続いているのが競馬だ。あまり声を大にして言えないのだが私の趣味としておこう。とかく競馬ってあんまり良いイメージはない。競馬はギャンブルとしての認識が強く、決してギャンブルではないと言い切れないのは事実である。お金を掛けている以上ギャンブルはギャンブルなのだが、競馬という“スポーツ”といった捕らえ方はどうだろうか。また、血で血を繋ぐ“血統の闘い”と考えてみてはどうか。そう考えると伝統もあるし、ロマンもある。お金を掛けずに競走馬が走っている姿を見ているだけでも興奮するし、楽しめる。皆さんも知っていると思うが、競馬は日本だけではなく世界中で行われている。

各国の強豪が集まって競うオリンピックのようなレースもある。この競馬は主に「サラブレッド」と呼ばれる品種の馬たちがレースを競う競技だ。サラブレッドでない馬が競う競技もある。1トンを超える巨体の馬たちが重いそりを引き競う「ばんえい競馬」が有名なところだろう。これは北海道の十勝でしか開催していない競馬だ。競馬はもともと海外（イギリス発祥）では古くから行われているが、日本には19世紀に入ってからといわれている。その後、日本国公認の競技となり、娯楽の一部として定着した歴史がある。

競走馬たちが騎手と一体となりゴールを目指す姿は感動を与えてくれる。そんな競馬の素晴らしさを是非知って欲しく伝えたい。これまで競馬を敬遠したり、競馬を知らなかった方々は是非競馬の面白さに触れてみてほしい。そして週末にでも競馬場へと足を運んで、競馬の興奮を味わおうではありませんか。ご一報ください…



<新潟競馬開催情報>

今後の開催日 8月2日～10月5日(毎週土・日曜日)9時開門

8/3: アイビスサマーダッシュ(GⅢ)=1000M

10/5: スプリンターズステークス(GⅠ)=1200M

※直線1000mは日本中でこの新潟競馬場でしか見られません、必見！

※新潟でGⅠを行うのは初めてかも…見逃すな！

他イベント盛りだくさん、子供も楽しめますよ



西新潟中央病院 臨床検査科近況報告

暑い日が続きますが、地区会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

冷たい物の食べ過ぎや、冷房のかけ過ぎで体調をくずしてないでしょうか？

(西新潟の検体検査室では、暑くて機械が悲鳴を上げています。)

さて...西新潟中央病院では、今年の4月からメディカルユニホームがリニューアルされました。

白衣は全員統一の**水色**！

ケーシーは部署別で

検査科→**ネイビー色**

薬剤科→**ワインレッド色**

リハビリ→**ブルー色**

放射線科→**レモン色**

です。

色を分けることにより、スタッフ間や患者さんからも解りやすくそれぞれの部署を認識してもらう事が今回のリニューアルの目的です。

(部署別でカラーが違うので、検査科内でも協調心が今まで以上にでている...気がします)

ユニホームが新しくなり、newな気分でモチベーションも上がり、毎日バリバリ仕事をしています。



2014年長岡花火 フェニックス10

編集後記

猛暑です...私は冷房で風邪をひいてしまい患者さん相手にゴホゴホしながら検査をしています...反省です。体調管理にはこういう時にも気を付けないとですね。睡眠、食事、ストレスをためずに暑い夏を乗り切ろうと思います。 M. S